

平成26年度 第1回 平塚市美術館協議会 会議録

開催日時 平成26年10月29日(水) 13時30分～15時05分
開催場所 平塚市美術館 研修室
出席者 副会長 河野孝博
委員 平野恵美子、栗木雄剛、鈴木靖、加藤宏、田平富實子
事務局 後藤社会教育部長、草薙館長、小林副館長、土方館長代理、
近藤担当長、勝山学芸員、江口学芸員、家田学芸員、安部学芸員

傍聴者 1名

会議の概要

- 1 開会
- 2 社会教育部長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 職員紹介
- 5 議題

(1) 平成26年度美術館事業について

これまでの事業報告(事務局から説明)

作品・資料 展覧会 教育普及 その他の事業 施設利用者等の統計

今後の事業予定(事務局から説明)

展覧会 教育普及 その他の事業 施設の管理

(2) その他

- 6 閉会

社会教育部長あいさつ

美術館は企画展等が注目を浴びていますが、地域に根付いた美術館として赤ちゃんアート・キッズアート・保育園児鑑賞ツアー・中学生から一般を対象とした様々なワークショップ事業に力を入れています。今後はアートカードだけでなく、さらに地域に根付いた事業として、新たに小学生向けの事業を行っていきたいと思っていますのでご意見をよろしく願いいたします。

議題及び質疑

(1) 平成26年度美術館事業について これまでの事業報告

事務局から上半期の展覧会事業・教育普及事業、その他の取組みについて説明。

展覧会事業について。

委員 プラティスラヴァ世界絵本原画展での「みんなで選ぼうお気に入りの絵本原画 ひらつか子ども審査員賞」の傾向として、子どもたちはどんな作品を選んだのか。

事務局 子どもたちが1位に選んだ作品はトルコ人作家の作品で、選んだ10位までの作品結果をパネルで展示室外に掲示しました。

子どもたちは、日本人作家の作品を選ぶ傾向が多かったです。

子どもは、現地ブラティスラヴァの大人が選んだ受賞作品を選ばない傾向があり、子どもを見る目と大人が見る目は違っていました。

委員 ブラティスラヴァ世界絵本原画展は展示室に絵本が置いてあり、原画と絵本を比べることが出来て良かった。子ども審査員賞の発表やワークショップ作品「絵本作家きくちききさんと大きなネコを描こう」の展示が会期中に出来て良かった。

教育普及事業について。

委員 ワークショップ平塚盲学校彫刻鑑賞ツアーに参加した生徒の意見は、どうだったか。
事務局 作品の説明をせずにとにかく生徒たちに集中して実際に彫刻作品に触れてもらった。生徒からは「作品が何であるかが分かり、楽しむことが出来た」と意見をいただきました。

委員 アートカードに対する子どもたちの声は、どうだったか。
事務局 子どもたちに展覧会場でアートカードゲームを実際にやってもらいました。子どもたちはアートカードを見た後に実物の絵を見ると、単に展覧会を見た時と子どもの反応が違っていました。

先生にアートカードについてアンケートを取った結果、子どもたちの意見として「たくさんさんの絵を見ることが出来て良かった」「またアートカードゲームをやりたい」「1枚1枚の絵を真剣に見ることが出来、興味を持ち楽しく取り組んでいきたい」という意見をいただきました。

委員 それが教育です。そこから興味を持っていただければよい。

その他の事業と施設利用者等の統計（団体向け研修・職場体験受入れ等の実績）を説明。

(1)平成26年度美術館事業について 今後の事業予定

展覧会事業について資料を基に、内容・会期・関連事業等を説明。

委員 横山大観の富士展で、市内から見た富士山の写真が色々あり、市民を取り込んだ企画で良かった。

教育普及事業について、協議会資料を基に、主なワークショップ事業の内容を説明。

その他の事業と施設の管理について、協議会資料を基に、ミュージアムコンサート・こども年賀状とおとな絵手紙展を説明。

(2)その他

鑑賞教育について

事務局 市が美術館を持つ重要性の一つは、生涯学習施設であり、鑑賞教育を将来的にルールに乗せていきたいと思っています。鑑賞教育とは、小学生4・5年生を対象として、美術館に来て3～4人のグループに分かれ、進行役の手助けをもとに、展示作品を自由に見てもらい、美術作品を通して 作品をよく見る観察力 見ることによって考える思考力 グループで話し合うコミュニケーション力を育成することが目的であり、赤ちゃんから小中学生までを対象とした切れ目のないワークショップ事業を実施すれば、赤ちゃんの時から絵に親しむことが出来、絵に対する違和感がなくなる。すでに美術館を持た

ない大和市で鑑賞教育を実施しています。鑑賞教育について委員のみなさまにご意見をいただきたいと思っています。

委員 中学生になってもじっくり作品を観ることが出来ていないため、小学校である程度鑑賞に対する下地が出来ていることが望ましい。

生徒が作品をじっくり見ることができるようになるプログラムが必要であり、生徒は、まず遊びの中で自然に作品を観る。教師は、作品の解釈をしないで、自分の感じたことを具体的に生徒に言わせ、作品は何を訴えているのか討論していけば、じっくり作品を観る習慣がつくようになり、この手法を繰り返せば、生徒は徐々に作品を観ることができるようになる。絵を鑑賞するという読解力は子どもに一番入りやすい。この読解力で培ったものは理科や社会科に繋がるので市としてのシステムができればと思う。

委員 平塚市には素晴らしい美術館があるので、市民が足しげく美術館に来てもらい、幼児教育から、子どもたちが親に連れられて絵に対する場慣れ、作品に触れる雰囲気を作ってもらおう。

生徒に作品を鑑賞する機会を与えることにより、生徒は感性を磨くことが出来る。アートカードが良い例で、第1段階としてすでに各小中学校でアートカードを利用している。学校が美術館に来る機会が少なく、もっと学校は美術館に来た方がよい。

委員 大人になってから絵を観ると子供の頃から絵を観るのでは全然違ってくる。心を育てるという意味でも、小さい頃から絵を親しむ機会を与えてほしい。

家庭で鑑賞教育を教えるのは難しいため、美術館が生徒に鑑賞教育の機会を与えてほしい。

副会長 最初から完成された体制を作るのは難しいから、まずはスタートして、ぜひ鑑賞教育を進めてほしい。

再入場について

事務局 現在はトイレや携帯電話、忘れ物等でやむを得ず一時的に展示室を出る場合に特別に再入場を認めている。観覧者から再入場の申出があった時に、再入場を可能とすることにより観覧者サービスにも繋がる。平成27年4月から始まる展覧会から当日に限り再入場を可能としていきたいが委員のみなさまのご意見をいただきたい。

委員 観覧者サービスにも繋がることであり、よいのではないか。

全委員 再入場について了承。

次回の協議会は平成27年3月開催予定

平成26年度第1回平塚市美術館協議会次第

平成26年(2014年)10月29日(水)

場 所 平塚市美術館研修室

時 間 午後1時30分から

1. 開 会

2. 社会教育部長あいさつ

3. 委員紹介

4. 職員紹介

5. 議題

(1) 平成26年度美術館事業について

これまでの事業報告

作品・資料

展覧会

教育普及

その他の事業

施設利用者等の統計

今後の事業予定

展覧会

教育普及

その他の事業

施設の管理

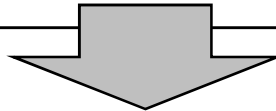
(2) その他

6. 閉会

展示室への再入場について（案）

現 状

- ・再入場不可。観覧券裏面の注意書き「本券は、1枚につき1人1回限り会期中有効です」「再入場はご遠慮ください」が原則。
- ・次の場合は特別に再入場を認める。
トイレ、携帯電話の着信、忘れ物（館内・ロッカー・駐車場）、体調不良、乳幼児が泣くなど、やむを得ず一時的に展示室を出る場合。再入場カードで対応
館主催の事業（講演会、ギャラリートーク、ワークショップ等）を実施する場合。
団体観覧等で学芸員レクチャーを実施する場合。



変 更 案

- ・当日に限り再入場可とする。
- ・当日であれば何回でも可とし、再入場は観覧者数にカウントしない。

【再入場の管理方法】

- ・再入場希望者からの申し出により半券に日付印を押印、再入場の際は、もぎりで半券を提示。

【今後のスケジュール】

- ・平成27年4月から始まる展覧会から実施予定。

【変更による効果】

- ・食事休憩後や同時開催の展覧会観覧後の再入場が可能となり、来館者サービスの向上となる。